第 40 号

遺跡に学ぶ

特集　考古資料を使った授業報告

公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団
http://www.gunmaibun.org/

土器作りと勾玉作り

高崎市立南陽台小学校　石井　淑美

本校では、毎年６年生の社会科学習の一環として群馬県埋蔵文化財センターでの体験学習と発掘資料館の見学を行っています。今年度も６月２日に６年生 28 人が、午前中は発掘資料館の見学と縄文土器作り、午後は勾玉作りの体験をしました。

１．発掘情報館の見学と先生の説明

初めに本物の縄文土器を見せてもらい、縄文時代の人たちが、どんな時に使い、何を入れていたのかなどを説明していただきました。先生が「縄文土器を触っていいよ。」と言うと、子どもたちは興味津々で土器を触り、厚みや大きさ、形等を体感していました。

本物の縄文土器を触っている様子

発掘資料館の見学で、子どもたちは群馬県から出土した土器や埴輪の数の種類や数の多さに驚いていました。出土品から見える昔の人たちの暮らしぶりも詳しく説明していただいたことで、事前に教室で学んだことに加え、昔の人たちの苦労や知恵などについてより理解を深められたようです。何より自分たちの住む吉井町の「神保古墳群」のレプリカを見て、とても興味深く観察をしていました。

■児童の感想

「縄文人は、土器を作る土を遠くまで取りに行くのはとても大変そうだと思いました。」

「ぼくは、土器を焼く時に割れにくいように砂利を入れているのを聞いて、昔の人は頭がいいんだなと思いました。」

「土器の下の方が細くなっているのは、土器をいろりに入れて火を当てるためというのをびっくりしました。」

「先生に聞いた、昔の人の話はとてもおもしろかったしわかりやすかったです。昔の人の暮らしがよくわかりました。」

発掘情報館、収蔵展示室の見学

発掘情報館、資料展示室の見学

２．縄文土器作り

その次に、縄文土器作りを体験しました。

まずは、土台として丸い粘土を手の平で平らにします。次に粘土をへびのように転がして長い棒状にして土台の上に載せ、積み上げて形を作っていきます。粘土の太さが一緒じゃないと土器の厚みも変わってしまうことや粘

土と粘土をしっかりとくっつけないとひびが入ってしまうことを聞いて真剣な表情で作り始めました。いつもはおしゃべりな子どもたちが、黙々と作っている様子は、教室では見られない新しい一面を見ることができました。それだけ土器を作ることが楽しく本気で取り組めているということなのだと思います。

縄文土器作り

土器が少しずつ形になっていくにつれて笑顔が増えてきました。見本を見ながら、模様や飾りを考えるのもまた楽しそうでした。教えていただいた先生方にアドバイスをいただいたり手直しをしていただいたりして、どの子も土器を仕上げることができました。形が左右対称でなかったり飾りが取れそうだったり様々ですが、目の前で自分の作品が出来上がっていくのはとてもうれしい体験ができたと思います。

後日、縄文土器が焼き上がって学校に届いた時に、包まれた新聞紙から作品を取り出す時は、わくわくしたとてもうれしそうな様子でした。それぞれのオリジナルの縄文土器を友達の作品と見比べながら喜んでいました。

■児童の感想

「土器を作っている時に、だんだん出来てくるとわくわくしました。」

「土器作りは、形がくずれてしまったりひびが入ってしまったりしたけど、先生が直すのを手伝ってくれてうれしかったです。」

「自分で土器を作ってみて、昔の人はとても大変な思いをして土器を作っていたことがよくわかりました。」

３．勾玉作り

四角い石に形を描き、穴を開け、余分な部分を削ってやすりで勾玉の形にしていきます。子どもたちは、四角い石を見た時にこの石が勾玉の形になるのか不安そうでしたが、作業を始めると黙々と進めていました。やすりで形を整える作業は、根気を必要とし、「先生、もういいですか？」「もう少し削ろう。」「まだまだ。」などという会話を繰り返しながら、集中して磨いて勾玉を作り上げました。帰りは、出来上がった勾玉を全員で大事そうに首にかけてうれしそうに帰りました。

勾玉作り

■児童の感想

「まが玉は、四角い石から丸い形にするのがとても大変でした。」

「まが玉作りで、石に穴を開けたりけずったり大変だったけど、完成した時はとてもうれしかったです。」

４．体験学習を通して

一日かけての体験学習は、子どもたちにとってとても有意義なものとなりました。土器や埴輪、矢じりなどの実物を見たり触ったりすることで昔の人たちの生活が具体的に理解できました。また縄文土器や勾玉を作る体験をすることで、昔の人々の苦労や工夫について実感したり、作品を作る楽しさやその場でできあがるうれしさも感じることができました。勾玉をうれしそうに持ち帰る時や焼き上がった縄文土器が手元に届いた時の子どもたちの様子は、とても満足そうな表情をしていました。

担任として全員が当日に作品を仕上げることができるのか失敗しないかなど少し不安もありましたが、指導いただいた埋蔵文化財センターの先生の分かりやすい説明や、作業をお手伝いいただいた職員の方々がていねいで細かく教えてくださったおかげで、どの子も自分の思いを生かした作品を作ることができました。

何より教室で学んだ学習と見学や体験をして得た学習が結びつくという経験は、子どもたちの歴史への興味をより深めるのに本当に効果的だったと思います。

今回は一日に縄文土器と勾玉の体験学習と発掘情報館の見学を入れて忙しかったようにも感じましたが、だからこそ子どもたちの得られたものが大きく満足できた学習になったのだと思います。

土日や長期休みの日にも体験学習をやっているとのことなので、「休みの日に家族と一緒に来て埴輪を作ってみたい」「今度はもっと上手に作りたい」と意欲を持っている子も多かったです。

勾玉や火おこしの教材や土器や石器なども、借りられるようなので、学校でも体験活動を行うことも検討できると思いました。

クラブ活動での文化財の活用

榛東村立北小学校　志塚　雅美

1. はじめに

本校のクラブ活動は年 12 回。学年末にクラブ発表会を実施しており、全校で児童の一年間の活動を鑑賞する。ここで、「考古学」の言葉に初めて触れる児童が殆どである。

年間の計画としては、年度始めの組織作り、発表やそのための準備、年度末の反省等々で実質活動は８回程度になる。45 分授業で４～６年の異学年集団。更に年間行事の合間に位置付けられている為、二週連続であったり、単発であったりする。長時間かけてじっくり取り組むというのは、難しいので、活用教材も日程に合わせて限定されてくるのが実態である。

このような中で、「勾玉作り」、「火起こし」、「拓本」、「土器作り」や「どんぐり潰し」などに取り組んでいる。

2．活動の概要

①勾玉作り（２時間）

クラブの導入教材として、「考古学」への興味・関心を高めるものの一つである。

まず勾玉の形が持つ意味や使われ方などを説明してから、個々の作業に入る。滑石に勾玉の形を描き、錐で紐通しの穴を開けていく。錐を初めて使う児童が多く、思ったほど簡単に開かない滑石に悪戦苦闘の様子であった。

次に糸鋸でおおよその形に削り、紙ヤスリで形を整えていく。勾玉のくびれをだすのに苦労していたが、磨きの段階に入り、艶が出てくると、児童の笑顔が多くなっていった。

紐を通して、首にかけて出来上がり。学年差や個人差があっても２時間でこなすことができる。

②火起こし（２時間）

毎年群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館（以下群埋文）にお世話になり、火起こしの道具を貸して頂いている。同時にリーフレットも頂き、児童の理解を深めている。

このリーフレットを基に「火おこし」の歴史や方法を説明して、４～５人のグループを作り、「舞ぎり」に挑戦する。火起こしは下の写真にあるような道具を使う。

火起こし：夢中で挑戦

横木を上下させて中央にある棒（「杵」）を回転させ、その先端にある「火きり臼」と呼ばれる木を削る。摩擦で熱を持ち黒くなった木屑がたまり、火種になったら燃えやすい火口に移し、そっと息を吹きかけるとあっという間に炎があがる。バケツをそばに置くのが必須である。

なかなか回転が続かなかったり、やっと木が焦げるにおいがしたと思っても、力が入りすぎて「杵」が「火きり臼」からはずれてしまったり、諦めや苛立ちが錯綜する光景である。だんだん慣れてコツをつかんでくると、回転も途切れることなく、黒い木屑から火種ができ、火口へも上手に移し、火をつけていた。

２週続けることによって、どのチームも１回は火をつけることに成功していた。

児童が最も夢中になって取り組んだ活動であり、火を起こすことが如何に大変なことであるかを経験することにより、古代人が火を大切にする所以を垣間見たような体験になった。

③拓　本（１時間）

拓本は、石碑や土器などの対象物に紙をあて、墨を使って文字や紋様などを写し取ったものをいうが、群埋文で

この拓本のセットを貸して頂く。リーフレットも頂き、児童にそれを使って説明をする。

拓本：本物を手に取り慎重に！

本物の縄文土器の破片を扱うとあって、児童に緊張が走る。墨を打つことで紋様が現れてくることに驚いたり、縄文人が縄目や条痕など色々な紋様を土器に施していること、縄・竹・貝などで様々な紋様を作り出していることやその紋様に古さを感じないこと等々に感激したりしていた。

④施文具と土器作り（２時間）

１時間は麻を撚って施文具を作り、土器の作り方の説明をして、人物埴輪や土鈴を紹介し、作品のイメージを作る。土器の制作時間も１時間なので、使用する粘土は市販の素焼き用のもので一人５００グラムである。

まず、施文具作りで「拓本で写し取った縄目の紋様は、こうして作るのか。」と、児童は納得した様子。しかし、麻を撚る作業も簡単にはいかず、縄文人の知恵に改めて感心していた。

土器は、粘土を紐状に伸ばし、それを積み上げて作る。紐の継ぎ目を指で丁寧に消し、形が整うと自分で作った縄文の施文具を表面に転がして紋様を付けて出来上がり。二週間ほど乾燥させて、学校にあるかまどで焼成する。仕上がった土器に満足そうであった。

⑤どんぐり潰し（１時間）

縄文時代の調理道具に叩き石と石皿がある。採取したドングリをすり潰して粉状にするのである。この道具も群埋文にお借りした。

児童が校庭や公園で集めたドングリを持ち寄る。丸い形や細長い形など形状が異なり、少々不安がよぎる。石皿の上で叩き、潰しにかかる。粉状になったものを口に運ぶ。恐る恐る舐めてみる。思わず声が挙がり、渋い顔。縄文人の大事なエネルギー源の一つであることと、食用には適さないドングリがあることも知った。

どんぐり潰し：叩き石と石皿で粉状に

３．おわりに

校区には、耳飾りで有名な茅野遺跡や高塚古墳などもあり、クラブ活動で文化財の資料を使って体験させることは、地域の歴史をより身近なものとして捉えるきっかけになり得ると考える。

これからも積極的に考古学資料を活用していきたいと思う。

「なぜ、土器は変化したのか？」本気で議論してみた

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校　小林　大悟

1．考古学者になろう

日本列島の歴史は数々の歴史的転換を経ながら現在に至っていますが、中でも縄文時代から弥生時代にかけての転換は最大規模のものでした。この歴史的転換を考古学者はどのように解明してきたのでしょうか？　文献資料が乏しい時代だけに、発掘調査により発見させた遺構や遺物はもっとも重要な資料になります。これらを丁寧に観察しながら、仮説を立て、検証していく、生徒たちにも２時間で構成した授業の中で、同じ方法でこの歴史的転換の解明をしてもらいました。群馬県埋蔵文化財調査事業団の協力により、本物の縄文土器と弥生土器をお借りし、貴重な体験ができました。

2．土器から情報を引き出す

旧石器時代から縄文時代にかけての学習を一通り終えた段階で本授業に入りました。教室の真ん中に土器を置き、それらを取り囲むように円形に椅子を配置しました。生徒が用意するものは、クリップボードと筆記用具、ワークシートを配布してスタートです。最初に、縄文土器のスケッチをしてもらいました。実際に手に取りながら、形状、材質、手触り、重さ、大きさ、色などの情報も記入してもらいました。次に弥生土器を出し、同じようにスケッチや情報の記入をしてもらいました。

3．情報を基に考える

「縄文土器の用途は何だろう？」と問いかけ、自分の考えを図や言葉を用いてワークシートに書いてもらいました。より深く考えられるようにするため、生徒の考えに対し、教師が疑問を投げかけ、さらに追究させました。また、弥生土器についても同様の活動を行いました。

縄文土器の用途は何だろう？	
生徒の考え	教師の疑問
木の実などの貯蔵に用いたのでは？	木の実の貯蔵だったら籠でもできるのでは？
鍋のようにして使ったのでは？	こんな派手な飾りがついていたら不便では？
棺にしたのでは？	この大きさに入るかな？

弥生土器の用途は何だろう？	
生徒の考え	教師の疑問
貯蔵に用いたのでは？	何を貯蔵したのかな？
鍋のようにして使ったのでは？	なぜ、この形なのかな？薄くなったわけは？
米を炊いたのでは？	「炊く」と「煮る」の違いは？
罠をつくり、小動物を捕まえたのでは？	そんな簡単に捕まえられるかな？

４．課題をつかむ

いよいよ本題に入ります。「なぜ、縄文時代から弥生時代にかけて土器は大きく変化したのか？」という課題とともに、「結論」、「理由」、「根拠」とだけ書かれたＡ３判の紙を配り、次時までにまとめてくるように指示しました。文章ではなく図や言葉でまとめると発表の際に相手に伝わりやすいこと、最初に結論を書くことで内容がぶれなくなること、何を基に自分の意見を述べているのか根拠をはっきりさせることが大事であることを注意事項として付け加え、その日の授業を終えました。

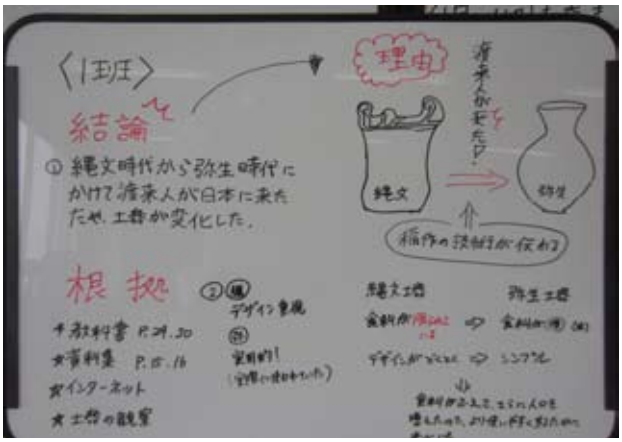
５．小グループでの発表と話し合い

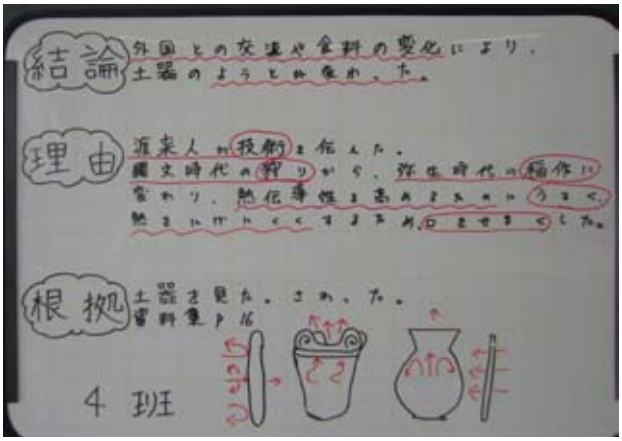
２時間目の授業では４人組をつくり、課題に対する自分の考えを発表し合いました。結論が同じでも理由が異なることもあり、持ち寄った根拠となる資料を示しながら、土器が変化した理由を力説する場面が見られました。

そこで、次の指示を出します。グループで一つの考えをまとめるというものです。ここで役立つのがホワイトボードです。意見を書いたり、消したり、付け加えたりしながら熱く議論し、ようやくグループの意見がまとまりました。

６．全体での発表

ホワイトボードを片手に、グループで議論した結果をクラス全体に発表しました。





土器が薄く、丸くなったのは熱伝導率を高め、米を対流させておいしく炊き上げるためではないかなどの考えを、根拠を示しながら力説する姿は考古学者のように見えました。歴史を解明するプロセスを体験しながら、見方や考え方を深め、まとめる力や伝える力も伸ばすことができ、充実した授業となりました。

平成 27 年度教職員向け埋蔵文化財講座「授業に生かす・ぐんまの遺跡」開催

埋蔵文化財調査事業団普及課長　新倉明彦

８月４日（火）～６日（木）までの３日間、今年度の教職員向け埋蔵文化財講座が 17 名（高校籍１名、特別支援学校籍２名、中学校籍６名、小学校籍８名）の受講生を迎え開催されました。この講座は、県教育委員会の委託事業として、例年夏休み期間中に実施しております。

８月４日　（１日目）
講義１『授業で使える埋蔵文化財』

今年度は、「授業に生かす・ぐんまの遺跡」と題し、講義では「甲を着た古墳人」が発見された渋川市の金井東裏遺跡について調査担当者より詳細な成果が伝えられるなど、最新の資料や調査成果を基に、県内の埋蔵文化財と教科書で扱われる内容との繋がりや実際の授業に役立てていただける資料などが紹介されました。

８月５日　（２日目）
講義３『群馬の古墳時代と金井東裏遺跡』

また、発掘情報館でご提供できる古代体験として、実際に「勾玉づくり」を体験していただきました。

二日目の特論では県が作成した『東国文化副読本』について、県文化振興課の編集担当から副読本の構成と意図についての詳細な説明が伝えられ、これを受けて、太田市立太田中学校の赤石淳教諭から本を活用した授業の進め方の実例についての発表がなされました。

８月５日　（２日目）
特論　『東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう』を授業に生かす

発掘調査実習では「囲い状遺構」など前例をみない発見で注目される渋川市の金井下新田遺跡発掘調査現場にて、古墳時代に遺跡を覆った榛名山の火砕流の除去作業を体験しました。

８月６日（３日目）
講義４　発掘体験実習
（金井下新田遺跡）

受講いただきました先生方には、遠路お運びいただき、また、真夏の炎天下での発掘作業など、短い期間ではありましたがご苦労様でした。御礼申し上げますと共に、本講座が教壇でのお仕事の一助になれば幸いに存じます。この「教職員向け埋蔵文化財講座」は、例年開催されております。多くの先生方の受講を願いますと共に、講座に関するご意見やご要望がありましたら、是非ともお聞かせ下さい。

	内　　容	時　間	講　師
8月4日(火) (1日目)	**講義１**　授業で使える埋蔵文化財 県内の埋蔵文化財と教科書で扱われる内容との繋がりを、経験豊富なベテラン調査員が土器や埴輪などの実物をもとにお話しします。教科書からだけではわからない、ぐんまの歴史のダイナミックな姿をお届けします。また、講義4で実習を行う金井下新田遺跡の概要をお話しします。	10:00～12:00	調査課　原　雅信 資料1課　宮下　寛
	講義２　発掘情報館の体験学習 発掘情報館でご提供できる学校関係機関の見学・体験学習内容や依頼にあたっての留意点等について、「勾玉づくり」を体験しながら学んでいただきます。歴史関係の体験学習でお困りの先生はぜひ。	（講義） 13:00～14:15 （体験学習） 14:30～16:00	普及課　新倉明彦 一場茂樹
8月5日(水) (2日目)	**講義３**　群馬の古墳時代と金井東裏遺跡 「甲を着た古墳人」で有名な金井東裏遺跡の最新情報と展望についてお話しします。発掘調査の裏話や日々進展する詳細調査の内容など、ここでしか見れない・聞けないものを特別に公開します！	10:00～12:00	資料2課　大木紳一郎 杉山秀宏
	特論　『東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう』を授業に生かす 副読本の内容構成と意図について制作者の方が説明します。また、副読本を活用した授業の進め方について、モデル授業の先生に実例をお話ししていただきながら、皆で検討します。副読本のより良い使い道を学びたい先生必見です。	（前半） 13:00～14:00 （後半） 14:10～15：40	文化振興課　小林徹 太田市立太田中学校 赤石　淳
	〔施設案内〕 出土遺物の整理作業や、報告書の編集作業など、事業団の仕事と施設を見学します。	15:45～16:30 （希望者）	普及課　新倉明彦
8月6日(木) (3日目)	**講義４**　発掘体験実習（金井下新田遺跡） 金井東裏遺跡に隣接する金井下新田遺跡は、「囲い状遺構」などの前例のない発見で現在最注目されている遺跡です。世紀の大発見が相次ぐ発掘調査の最前線に、あなたも参加してみませんか？	10:00～16:00	普及課　新倉明彦

平成 27 年度教職員向け埋蔵文化財講座「授業に生かす・ぐんまの遺跡」　日程表

INFOMATION

◆第三期最新情報展『ほら！古代の音が聞こえる』

◆古来より、人々は楽器を用いて、祭り・憩い・祈りなど様々な場面で音楽を奏でてきました。展示では、縄文時代から江戸時代に至る「音」にまつわる出土品を集めました。展示・講演会を通じて、悠久の音に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

【展示期間】
平成 28 年 1 月 17 日（日）～ 5 月 15 日（日）
午前 9 時～午後 5 時（入館は 4 時 30 分まで）
土曜日・祝日は休館
※ 3 月 31 日（木）～ 4 月 2 日（土）は臨時休館

【講演会】
平成 28 年 2 月 7 日（日）　午後 1 時～
『日本の出土楽器の性格』
講師　石守　晃
（事業団上席専門員 資料統括）

◆公開考古学講座『古墳出現期の毛野と大和』

◆『古墳出現期の毛野と大和』
－葬儀用器台と中国・魏の年号鏡－

【講師】
石野博信　先生
（兵庫県立考古博物館名誉館長、奈良県立橿原考古学研究所研究顧問）

【開催日時その他】
平成 28 年 2 月 20 日（土）
午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分
入場無料・資料代有償・申し込み不要
定員 500 名

【場所】
前橋テルサ　ホール

【問い合わせ】
公益財団法人群馬県埋蔵文化財事業団　普及課
TEL 027-52-2513

※公演会終了後サイン会を予定しています。

◆メールによる行事案内のお知らせ

◆当事業団では年間を通じて展示会や講演会など様々な行事を催しています。メールによるこれらの案内をご希望の方は、下記のアドレスよりお申し込み下さい。
なお、受付の事務処理上、件名は『行事案内希望』として、本文に『住所・氏名・電話番号』をご連絡下さい。
◆メールアドレス：gunmaifukyu@apricot.ocn.ne.jp
◆ＱＲコード

※携帯電話のメールアドレスへ連絡をご希望の方はパソコンからの着信ができるように設定して下さい

『遺跡に学ぶ』第 40 号　平成 28 年 9 月 9 日発行
公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団　〒 377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田 784-2　電話番号　0279-52-2513（普及課直通）

■本誌は学校および教育関係者向けの埋蔵文化財情報誌です。学校の授業等で誌面内の文章写真図面をコピー利用する場合は著作権フリーです。それ以外でのコピー利用を禁じます。■ご意見・ご質問は上記あてに連絡をお願いします。